

○帝京科学大学 馬場千秋准教授による講義の様子と生徒の感想



講義名：「英語で教えるために必要なこと・学んでおくべきこと」

☆生徒から講師の先生へのお礼と感想

1年 M.Y さん

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科 馬場千秋 先生へ

先日は横浜清風高校に大学の体験授業をしに足を運んで頂き、ありがとうございます。

私は将来の目標が先生になることであり、本授業を選ばせて頂いたのですが、先生になるには生半可な気持ちではいけないと思わされる授業でした。しかし、先生になったら忙しい日々で毎日が新鮮で楽しそうであると思う授業でした。

馬場先生は授業をする上でどんなことを大切にしていますか？私は授業の中で「先生も生徒も楽しい授業をする」ということを大切だと思っています。私は楽しいことが大好きです。さらに私が 16 年間生き、「先生を目指す道」を選ばせてくれた先生達は皆、「先生も生徒も楽しい授業をする」ことが出来ていました。小学生の頃は毎年クラス替えで先生も変わるので、毎年「先生は授業楽しい？」と聞いていました。私に質問された先生は「先生は教える側だから楽しくはないかな～」と言う先生の他にも、「教えるのって大変だよ、でもね、私達先生が楽しい、楽しくない、っていうのは無意識に君たちに伝わっているからね、どうかな？私の授業は楽しいかな？楽しいと思うならちゃんとそれが伝わっているんだね」と言ってくださる先生も居ました。馬場先生が講義して頂いた内容のなかに、『教員の熱意・態度は生徒に伝わる』とあり、「これだ！」と思いました。

横浜清風高校にも熱意のある先生は沢山いて、特に私の担任の先生は熱意があります。担任の先生の授業の時に熱意が伝わってきます。私も熱意のある先生になりたいと思える授業でした。

先生になるためには、教科の知識・生徒指導や、生徒のニーズに合った指導をするための努力が出来るか、他にも教材研究・授業研究も求められる要素です。具体的に述べると、しっかりと生徒を叱れるかどうか、平等に接せられるか、その教科が苦手な人に合うように説明できるか、板書の方法・指名の仕方・質問の仕方をレベルに合わせてできるか、といったことが必要であり、教員は大変だと思いました。

先生になるためには、熱意や人柄も学習する人のやる気に繋がっていると思います。熱意は私の担任の先生が世界史 A を授業する時に沢山伝わるので、「確かにな」と思いました。先生の熱意は生徒に伝わるので、怒るにしても、単にイライラしているだけか本当にその子を思って怒っているかも、自身の体験としてわかります。教える子一人一人に愛情を持って接してくださるかも重要だと知りました。

本授業を受け、先生になるには生半可な気持ちでなるわけにはいかず、覚悟を決めてならないといけないことを知りました。しかし、分からないところが分かってくれると、とても嬉しくなることからやりがいの有る仕事だと思いました。

今後も先生や学校に関する理解をさらに深め、どの様な先生になりたいか模索していきたいです。

本当にありがとうございました！

1年 W.Mさん

今回の模擬授業で私は、英語教員に限らず教員という職業は授業の準備などの努力を惜しまないことや、生徒への思いやり、授業に対する情熱などが必要であることがわかりました。また、英語教員になる上で必要な実力は英検準1級といった、かなり高い実力を要するということも初めて知りました。私にとって中学校教員は進路のひとつと思索しているため、本授業を受講しました。そして、予想以上にこの教員という職業はとても大変であると感じました。教員という職業は大変な面も多いですが、同時に楽しそうな職業とも思いました。というのも、私が今まで生徒として過ごしてきた日々を送る側でなく、見守る側になってみたいと思い、「自分を高める職業としては良いものかもしれない」と思ったからです。今回の模擬授業で私は、教員についての知識を増やすことができ、さらに私自身の進路についても考え直すことも出来ました。